



2026年10月期 第2四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Jun.12th.2026

2026年10月期 上期決算の概況

連結

売上高 15,131 百万円
(前期比+9.6%)

営業利益 533 百万円
(前期比△49.3%)

光事業

売上高 8,424 百万円
(前期比+17.9%)

営業利益 △167 百万円
(前期は△387 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 6,707 百万円
(前期比+0.8%)

営業利益 700 百万円
(前期比△51.3%)

- 光事業はデジタルカメラ市場における光学プレス品の堅調な需要に伴い増収。加えて、適正利益の確保に向けた価格改定を行ったことから損失は縮小
- エレクトロニクス事業は半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響が継続したものの、低誘電ガラスの売上が増加したことから増収。一方で、製品ミックスの変化により減益

2026年10月期 業績見通し

連結

売上高 31,900 百万円
(前期比+10.4%)

営業利益 1,800 百万円
(前期比+0.3%)

光事業

売上高 16,900 百万円
(前期比+10.4%)

営業利益 △400 百万円
(前期は△799 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 15,000 百万円
(前期比+10.4%)

営業利益 2,200 百万円
(前期比△15.2%)

- 上期業績および足元状況を踏まえ、光事業とエレクトロニクス事業の通期業績予想を修正(詳細は12ページを参照)
- エレクトロニクス事業の下期業績回復の見通しに伴い、全体の売上高31,900百万円は過去最高水準となる見込み
- 中東情勢の影響は不透明であることから、通期業績予想には未反映



CONTENTS

1 2026年10月期 上期決算の概況

- 業績サマリー
- 光事業①
- 光事業②
- エレクトロニクス事業①
- エレクトロニクス事業②
- キャッシュ・フロー

2 2026年10月期 業績見通し

- 26/10期業績予想修正まとめ
- 通期見通しサマリー
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- トピックス
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

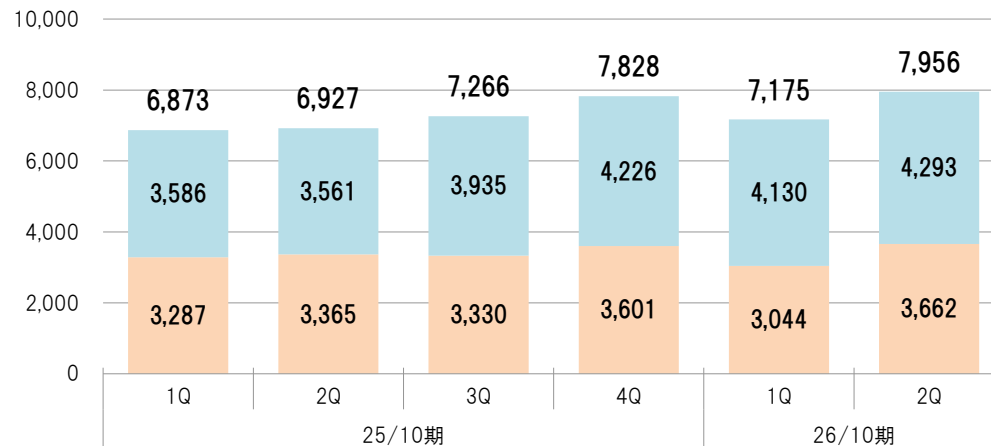
2026年10月期 上期決算の概況

(単位:百万円、%)

	25/10期 上期	26/10期 上期	増減 増減率
売上高	13,801	15,131	1,330 9.6%
営業利益	1,051	533	△518
[営業利益率]	7.6%	3.5%	△49.3%
経常利益	1,291	833	△458
[経常利益率]	9.4%	5.5%	△35.5%
純利益 (親会社株主に帰属)	756	453	△302
[純利益率]	5.5%	3.0%	△40.0%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 151.57 161.36	期中平均 156.92 183.24	

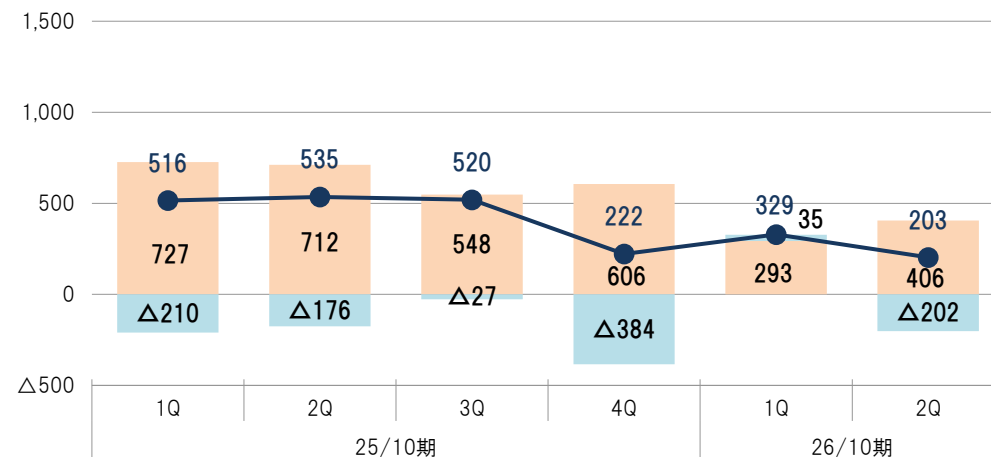
売上高四半期推移

(単位:百万円)

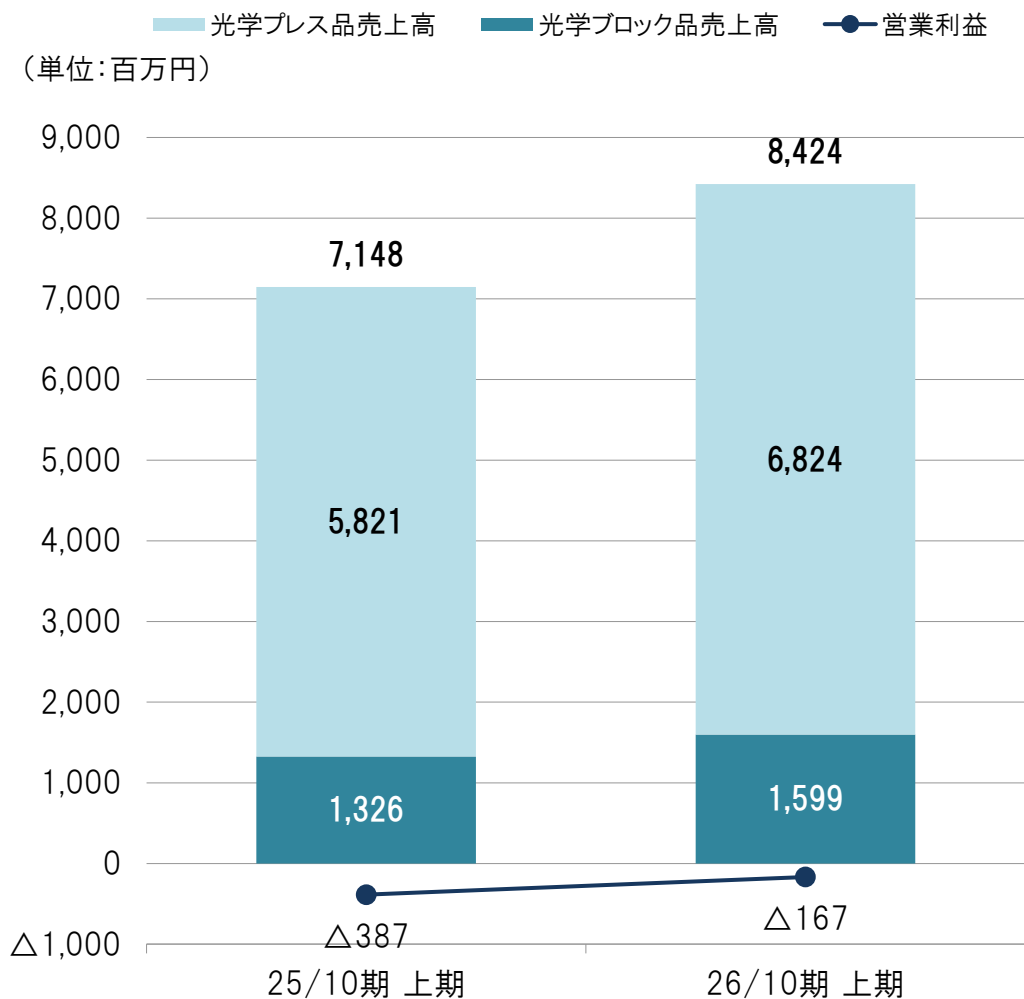


営業利益四半期推移

(単位:百万円)



上期対比

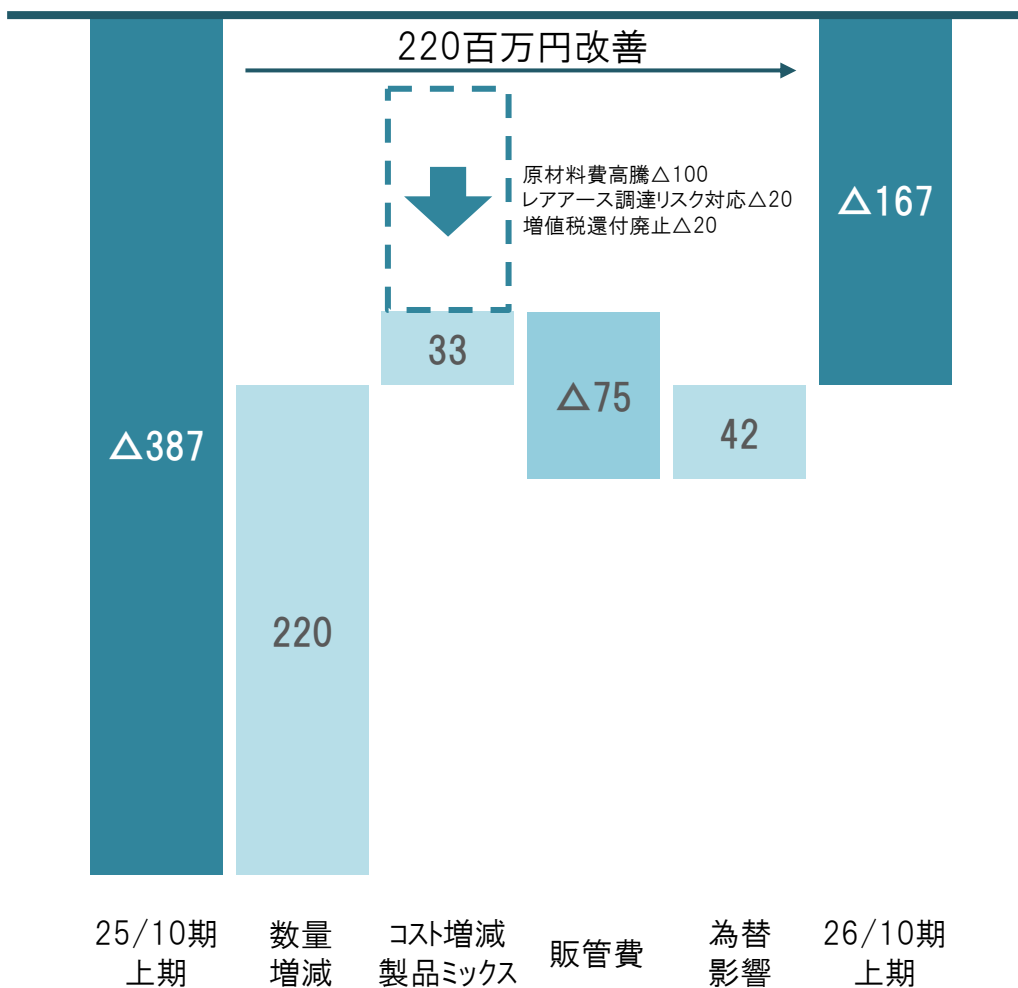


業績のポイント

- 売上高は8,424百万円
(前年同期比17.9%増)
- 営業損失は167百万円
(前年同期は387百万円の営業損失)
- 光学プレス品は、デジタルカメラ市場向け製品の需要が堅調に推移したことに加え、高単価な川下製品の売上が増加

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【数量増減】+220

- 光学プレス品を中心に日本・アジア向け売上が増加したため改善

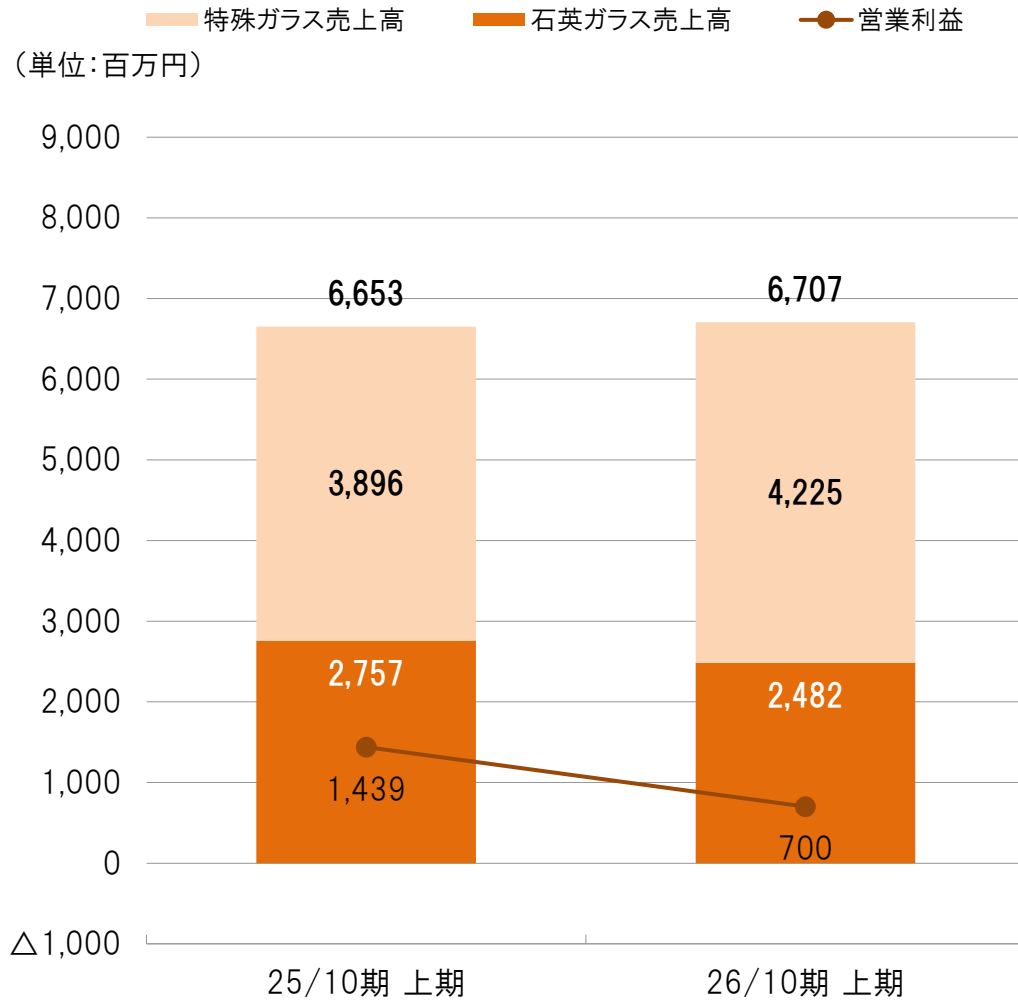
【コスト増減、製品ミックス】+33

- 高単価な川下製品を中心に売上が増加、また適正利益の確保に向けた価格改定を実施
- 一方、原材料費高騰、レアアース調達リスク対応、中国における増値税還付廃止などの影響により改善幅が限定的

【販管費】△75

- 主に人件費の増加影響

上期対比

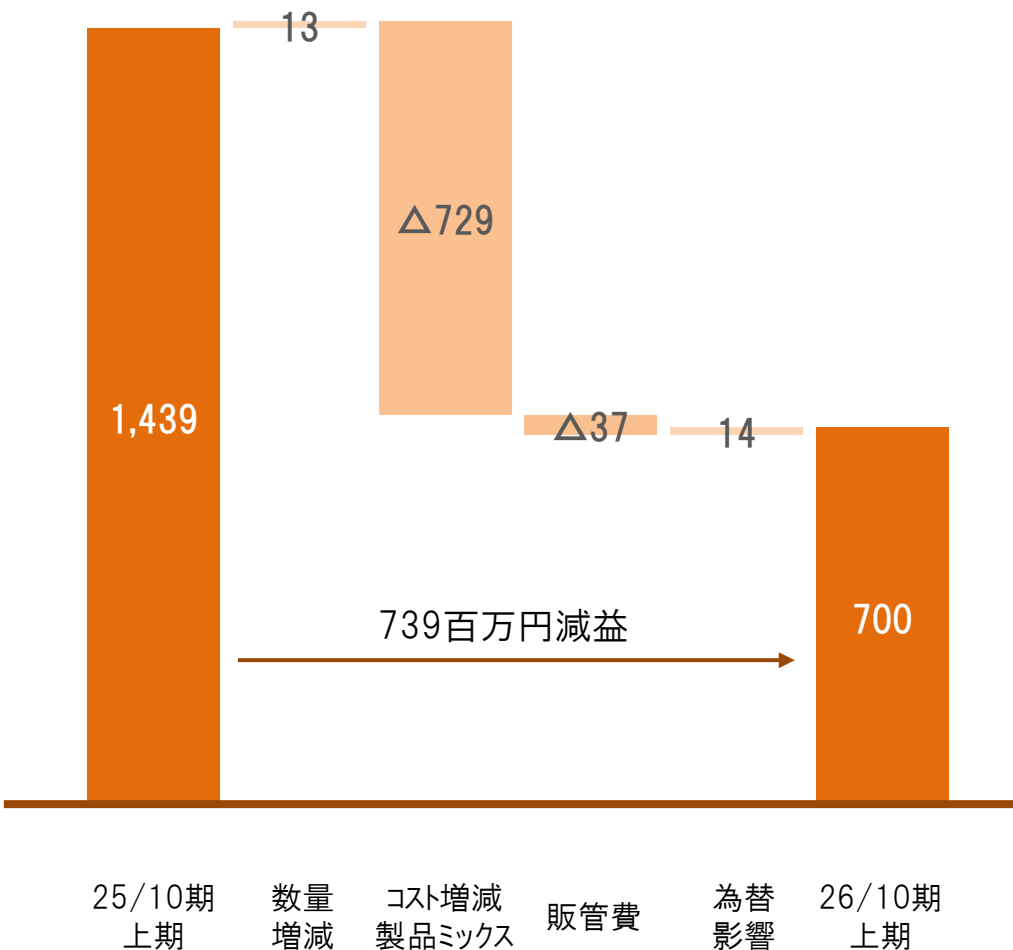


業績のポイント

- 売上高は6,707百万円
（前年同期比0.8%増）
- 営業利益は700百万円
（同51.3%減）
- 特殊ガラスは、半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響が継続したものの、AIサーバー向けプリント基板へ使用される低誘電ガラスの売上が増加
- 石英ガラスは、FPD露光装置向け製品の売上が減少

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【コスト増減、製品ミックス】△729

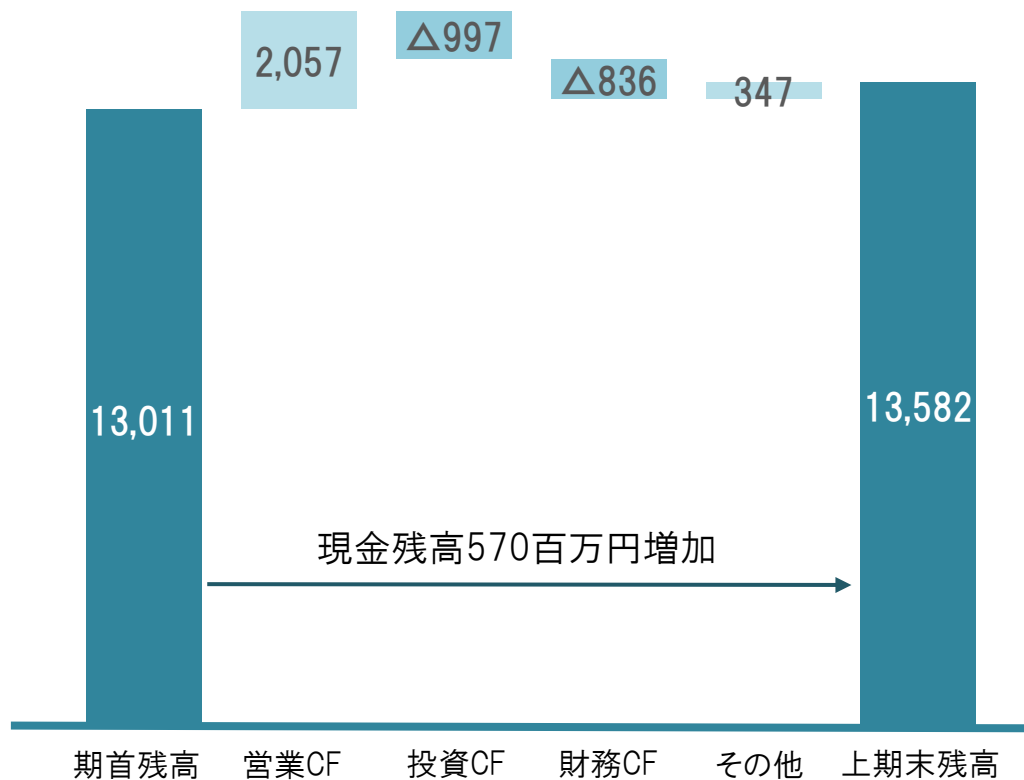
- 半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響による生産設備の稼働率低下、収益性の高い製品の売上が減少するなどの製品ミックスの変化により悪化

【販管費】△37

- 主に人件費の増加影響

増減要因

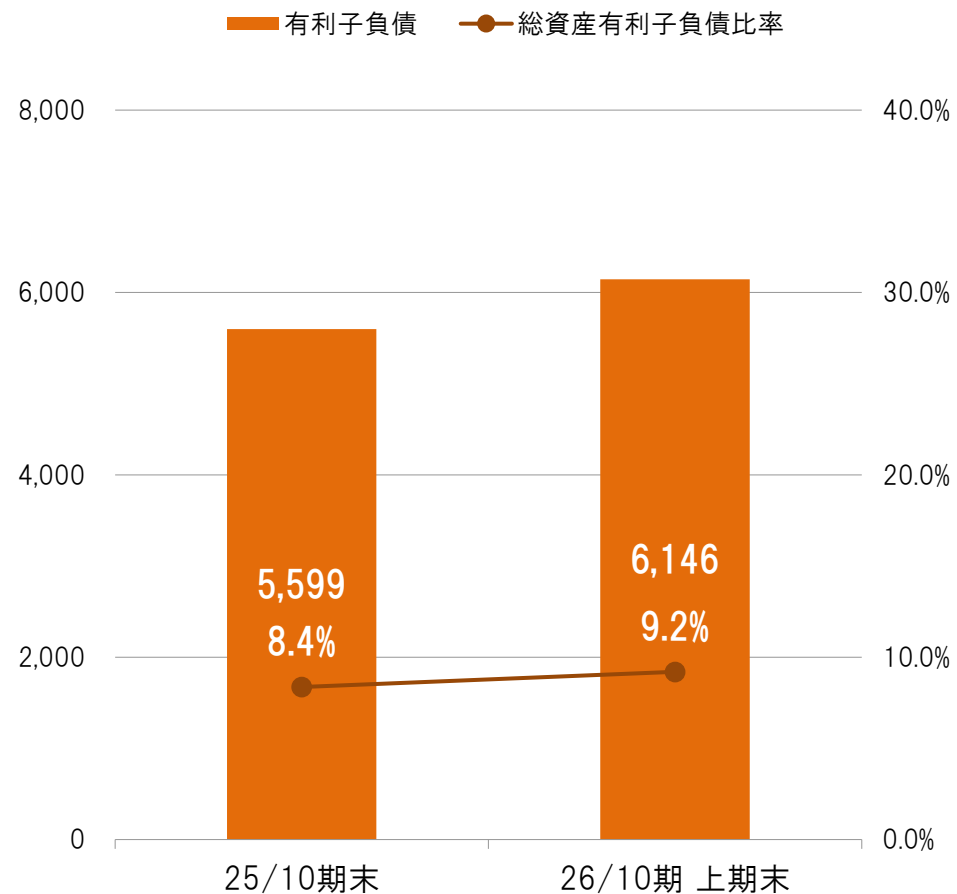
(単位:百万円)



有利子負債

(単位:百万円)

(単位:%)



2026年10月期 業績見通し

通期

(単位:百万円)

	期首予想 (25/12/11)	修正予想 (26/03/13)	修正予想 (26/06/12)	増減額
売上高	28,900	29,900	31,900	2,000
光事業	15,300	16,300	16,900	600
光学プレス品	12,700	13,600	13,900	300
光学ブロック品	2,600	2,700	3,000	300
エレクトロニクス事業	13,600	13,600	15,000	1,400
特殊ガラス	8,300	8,300	9,700	1,400
石英ガラス	5,300	5,300	5,300	0
営業利益	1,100	1,600	1,800	200
光事業	△700	△300	△400	△100
エレクトロニクス事業	1,800	1,900	2,200	300
経常利益	1,600	2,000	2,200	200
純利益(親会社株主に帰属)	900	1,200	1,400	200
為替レート	期中平均	期中平均	期中平均	
円/1USD	150.00	150.00	150.00	
円/1EUR	165.00	175.00	175.00	

見通しのポイント

【光事業】

- 光学プレス品はデジタルカメラ向けの高単価な川下製品の需要が堅調に推移することから売上高は前回予想を上回る見込み
- 原材料費高騰、増値税還付廃止などの影響により、利益は前回予想を下回る見込み

【エレクトロニクス事業】

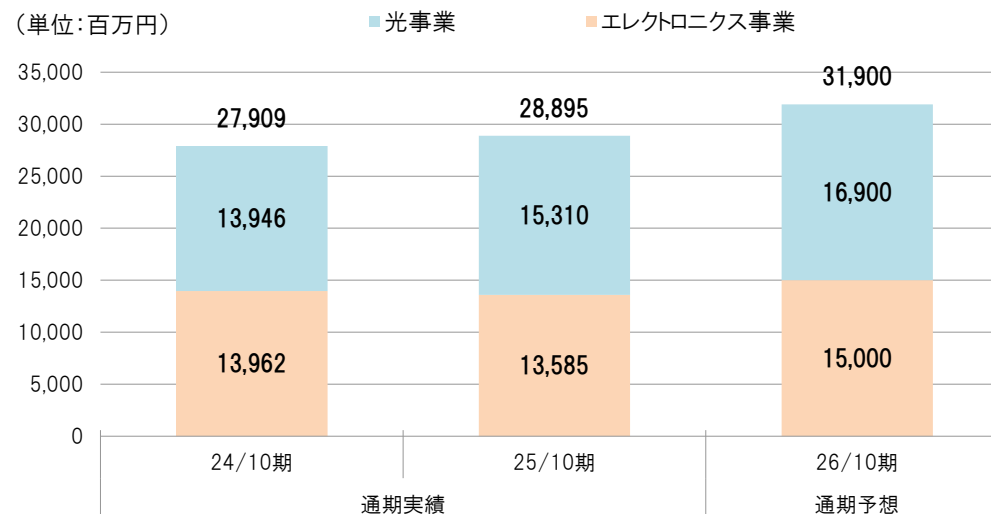
- 特殊ガラスは2Q以降回復基調となり、売上高は前回予想を大きく上回り、通期で過去最高水準となる見込み
- 売上の増収に伴い、利益は前回予想を上回る見込み

(単位:百万円、%)

	25/10期 通期	26/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	28,895	31,900	3,004 10.4%
営業利益	1,794	1,800	5
[営業利益率]	6.2%	5.6%	0.3%
経常利益	2,289	2,200	△89
[経常利益率]	7.9%	6.9%	△3.9%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,730	1,400	△330
[純利益率]	6.0%	4.4%	△19.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 149.34 166.06	期中平均 150.00 175.00	
年間配当金 (円)	25.0	25.0	

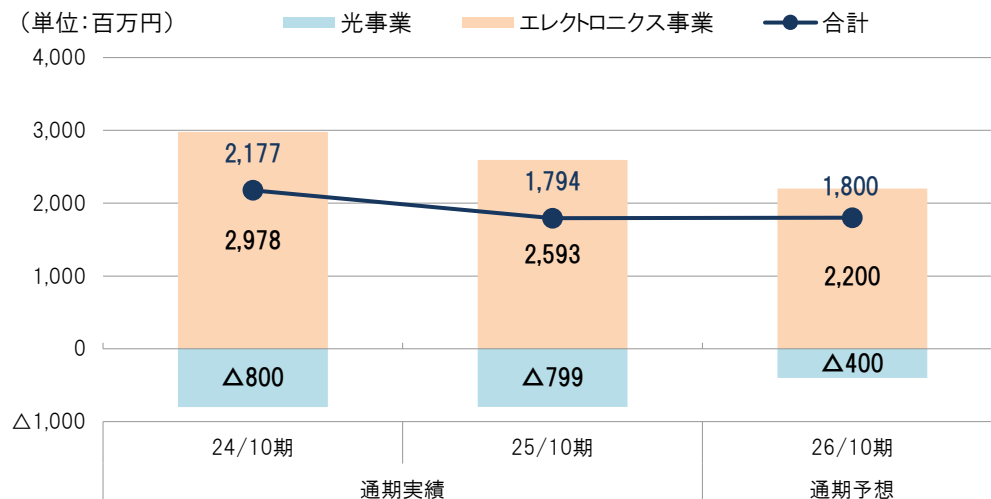
売上高内訳

(単位:百万円)

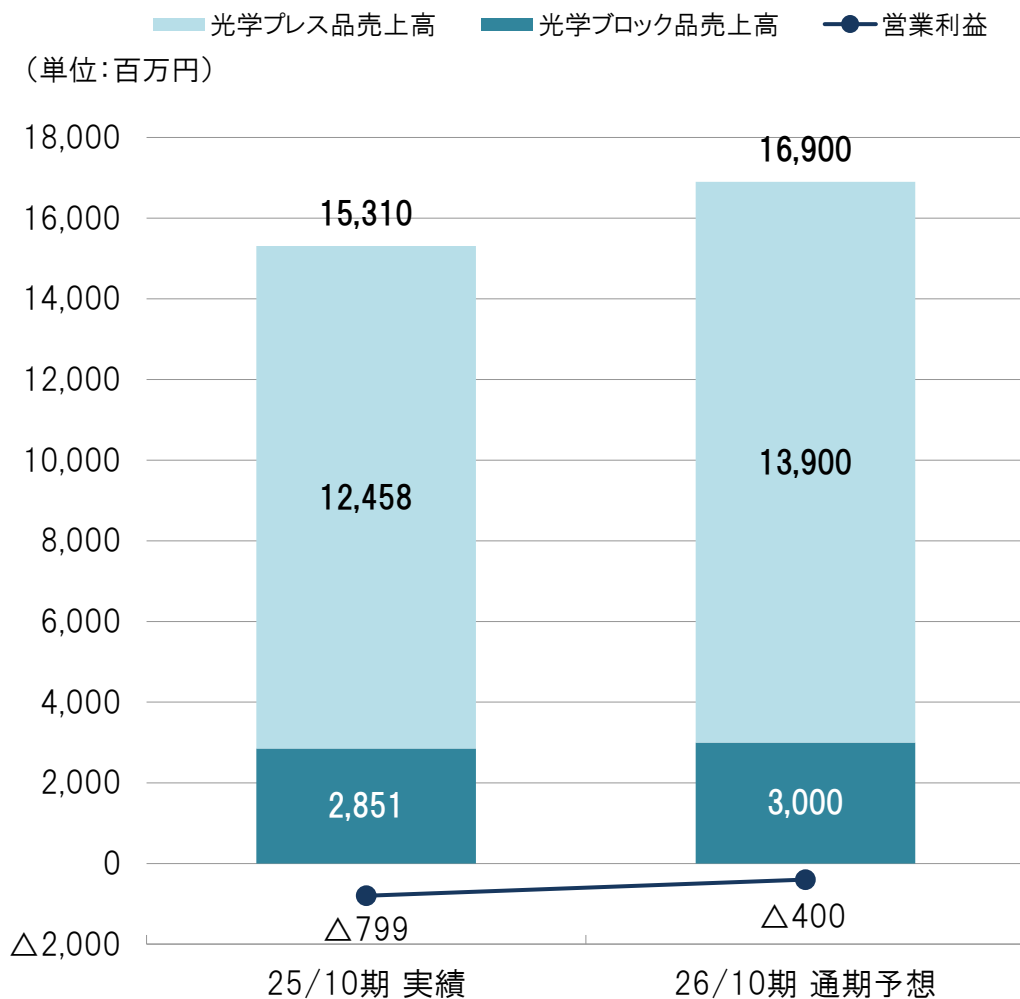


営業利益内訳

(単位:百万円)



通期対比



見通しのポイント

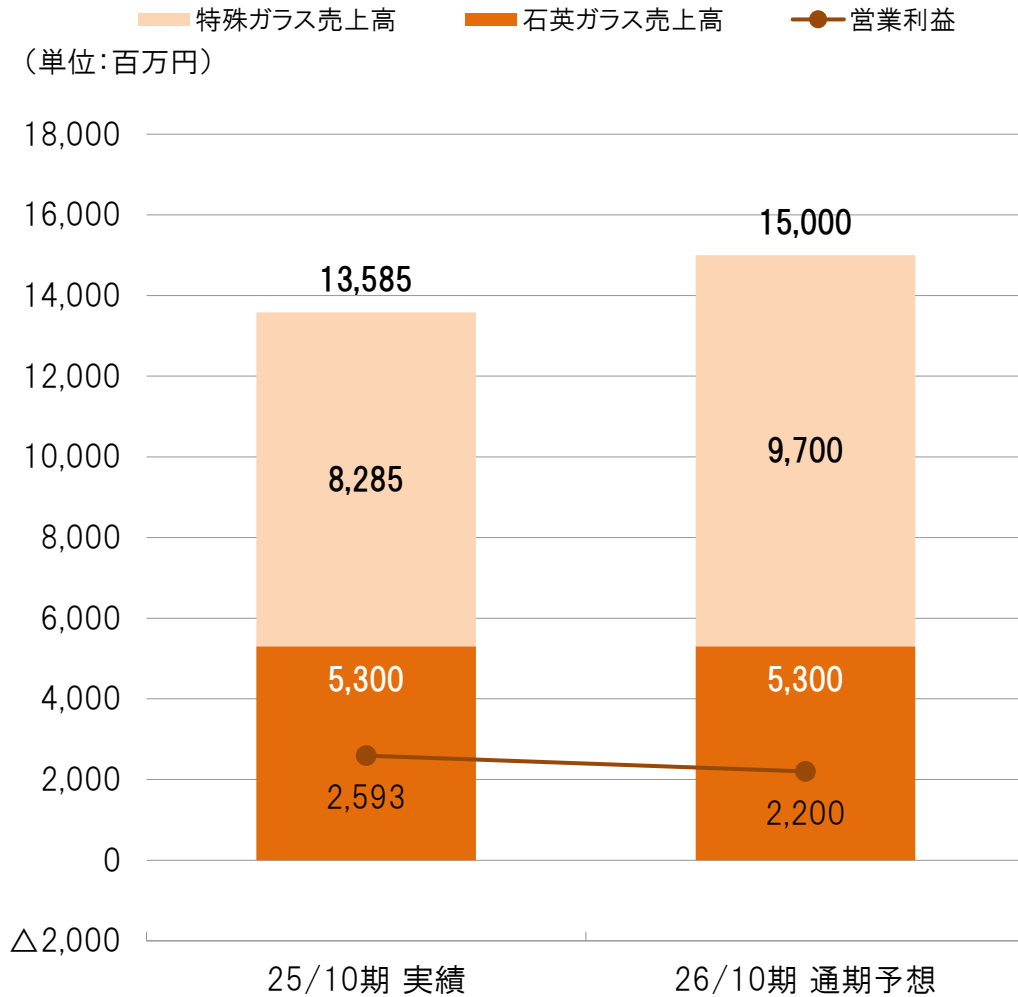
【売上高】

- 前期比10.4%の増収見込み
- 光学プレス品はデジタルカメラ向けの高単価な川下製品の需要が堅調に推移する見込み

【営業利益】

- 光学ガラス生産拠点の再編による生産性向上、製品価格改定により損失は縮小
- 一方で、原材料費の高騰やレアアース調達リスク対応、中国における増値税還付廃止などの影響により、営業損失の見込み

通期対比



見通しのポイント

【売上高】

- 前期比10.4%の増収見込み
- 半導体露光装置向け製品の需要は日本、アジア地域を中心に回復見込み
- データセンター投資拡大を背景として光通信機器向け製品は増収見込み
- 低誘電ガラスは、売上高前期比約2倍となる約10億円を達成見込み

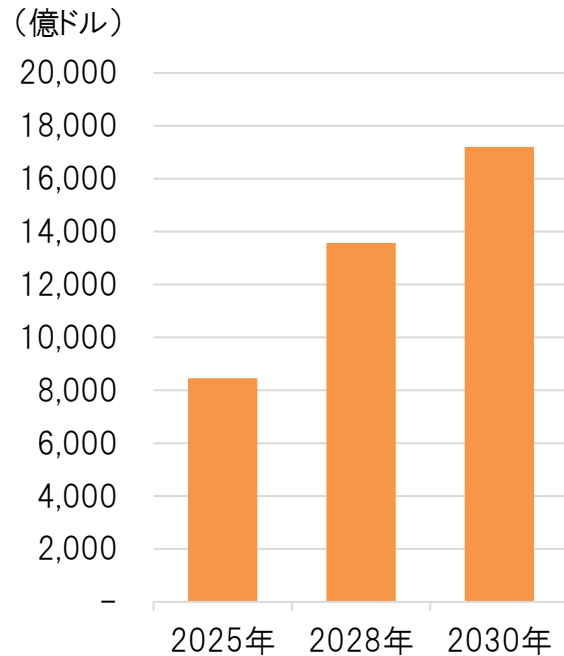
【営業利益】

- 前期比15.2%の減益見込み
- 業績は回復基調であるものの、上期の在庫調整による減収の影響が大きかったことから、通期では減益見込み

・ DWDM技術の適用拡大を背景に、光通信機器向け製品の需要が拡大

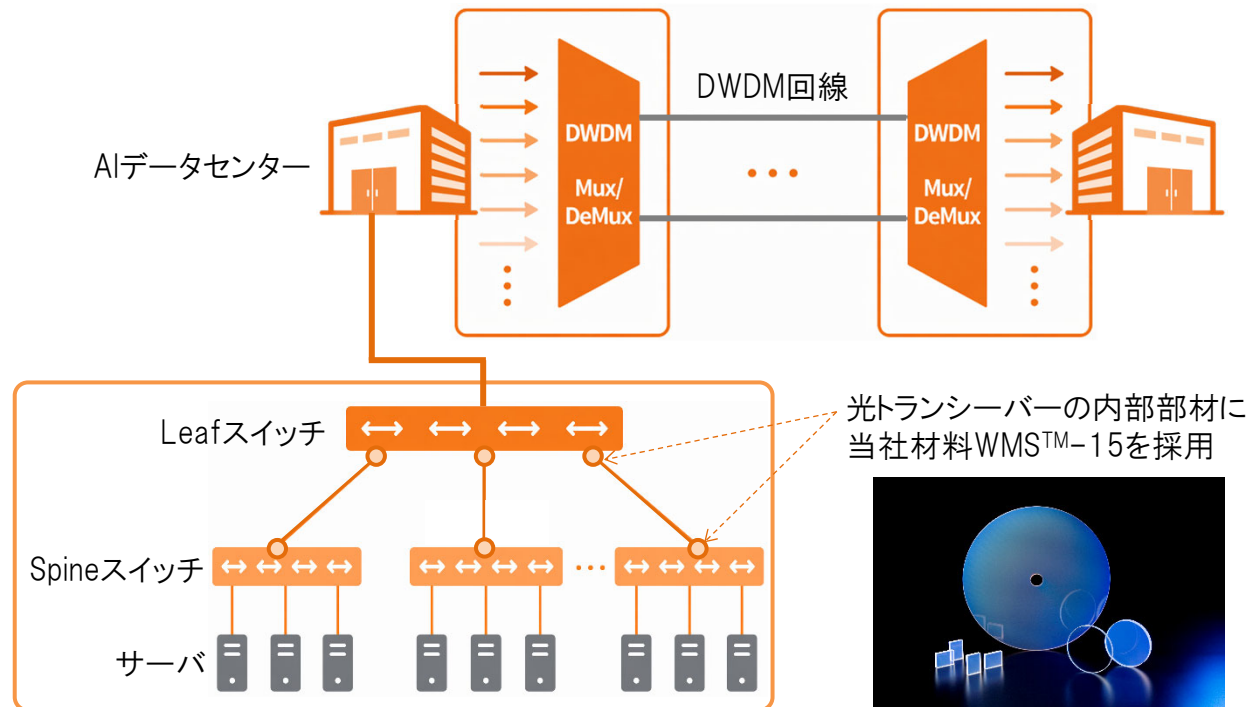
- ▶ データセンター間通信では、長距離・大容量通信に対応するDWDM方式が採用されている
- ▶ 米国を中心にAIデータセンター投資が拡大、通信の高速化ニーズの高まりを背景に、データセンター内通信の高度化が進展し、DWDM技術の適用領域が拡大
- ▶ 当社のDWDMフィルタ基板用材料「WMS™-15」は、優れた材料特性と25年以上の採用実績を背景に広く採用されており、今期売上高は前期比約2倍の10億円規模を見込む
- ▶ 光通信機器向け需要の拡大を背景に、当社製品の需要は今後も拡大基調が継続する見通し

データセンターサービス世界市場見通し



(出典): JEITA「データセンターサービス市場見通しを発表」(2025年12月)
 一般社団法人 電子情報技術産業協会/JEITA
<https://www.jeita.or.jp/japanese/topics/2025/1216-2.pdf>

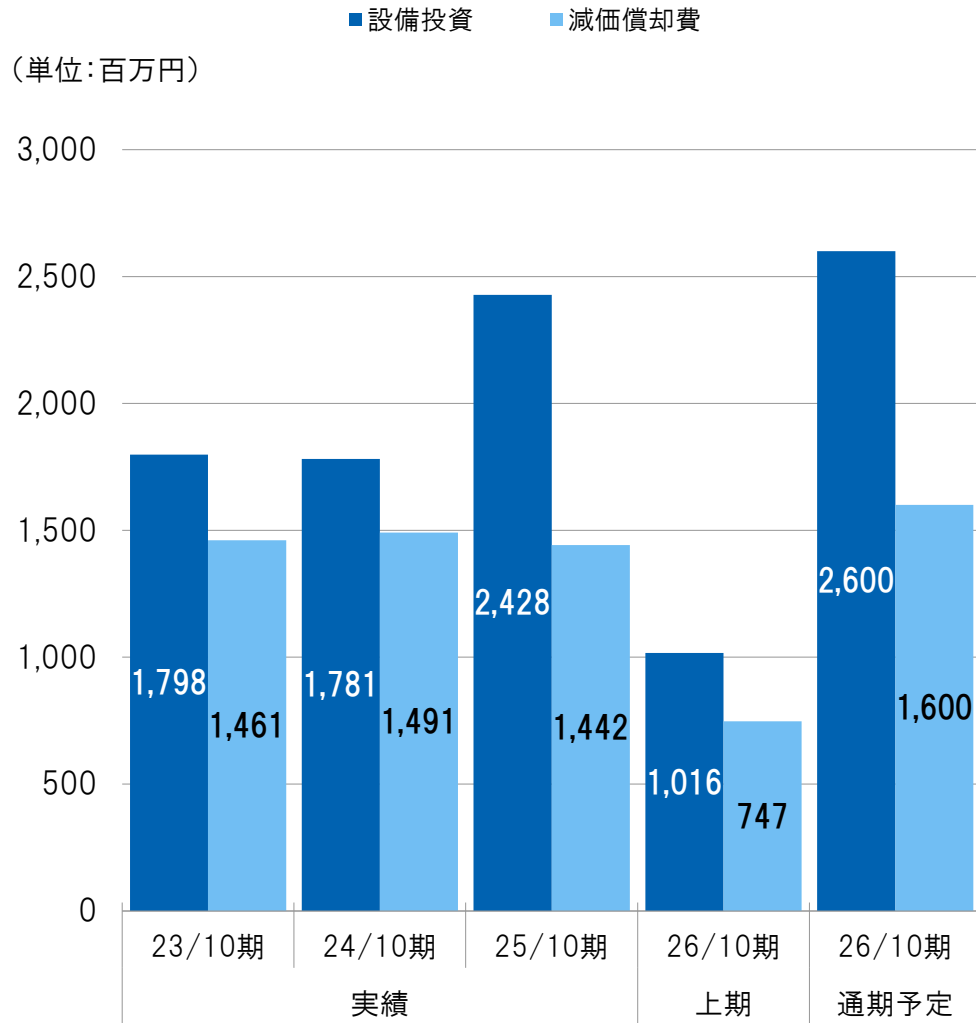
光通信機器の構成



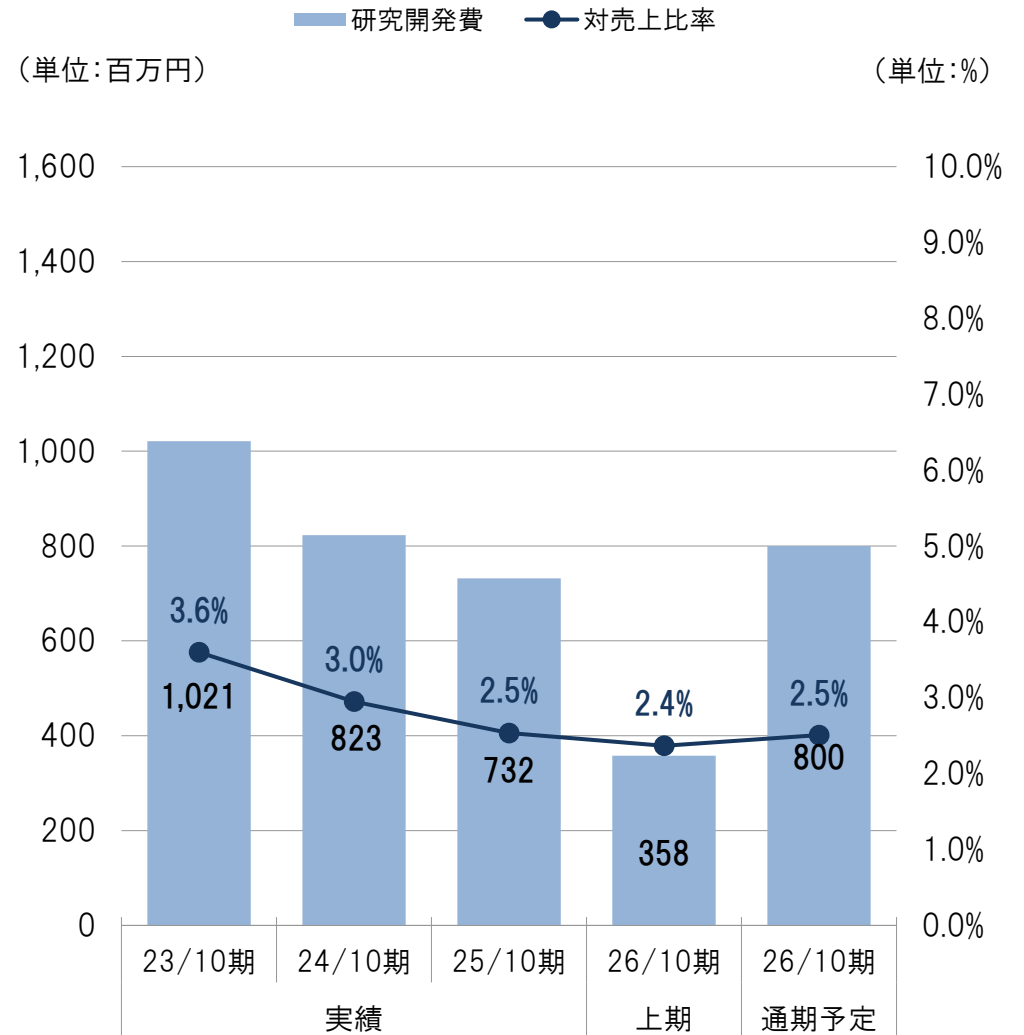
光トランシーバーの内部部材に
当社材料WMS™-15を採用



設備投資、減価償却費



研究開発費

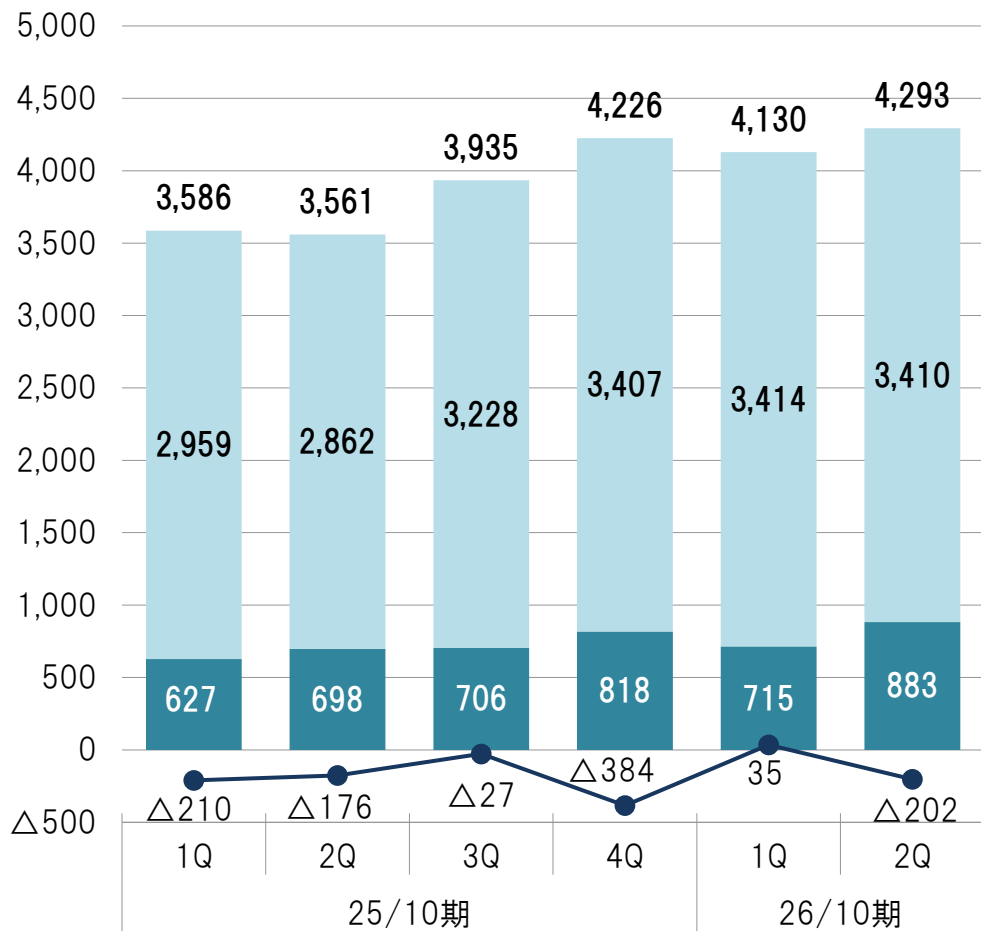


Appendix(参考資料)

光事業

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

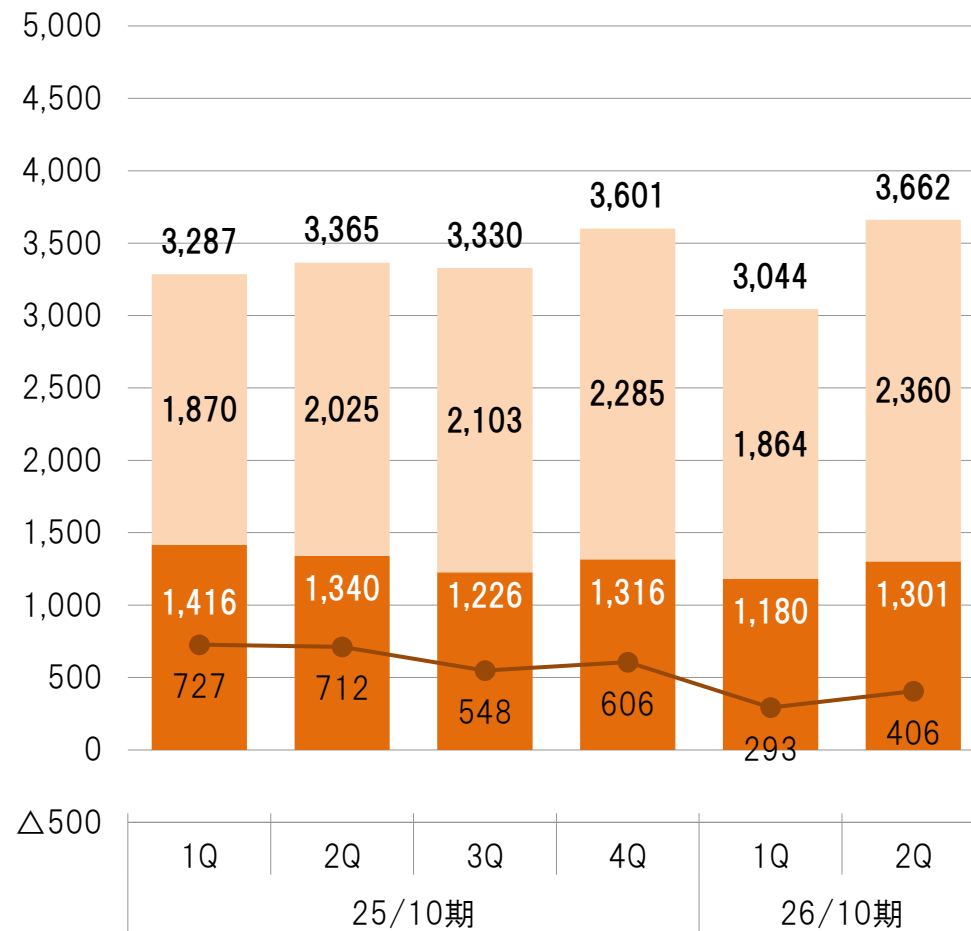
(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

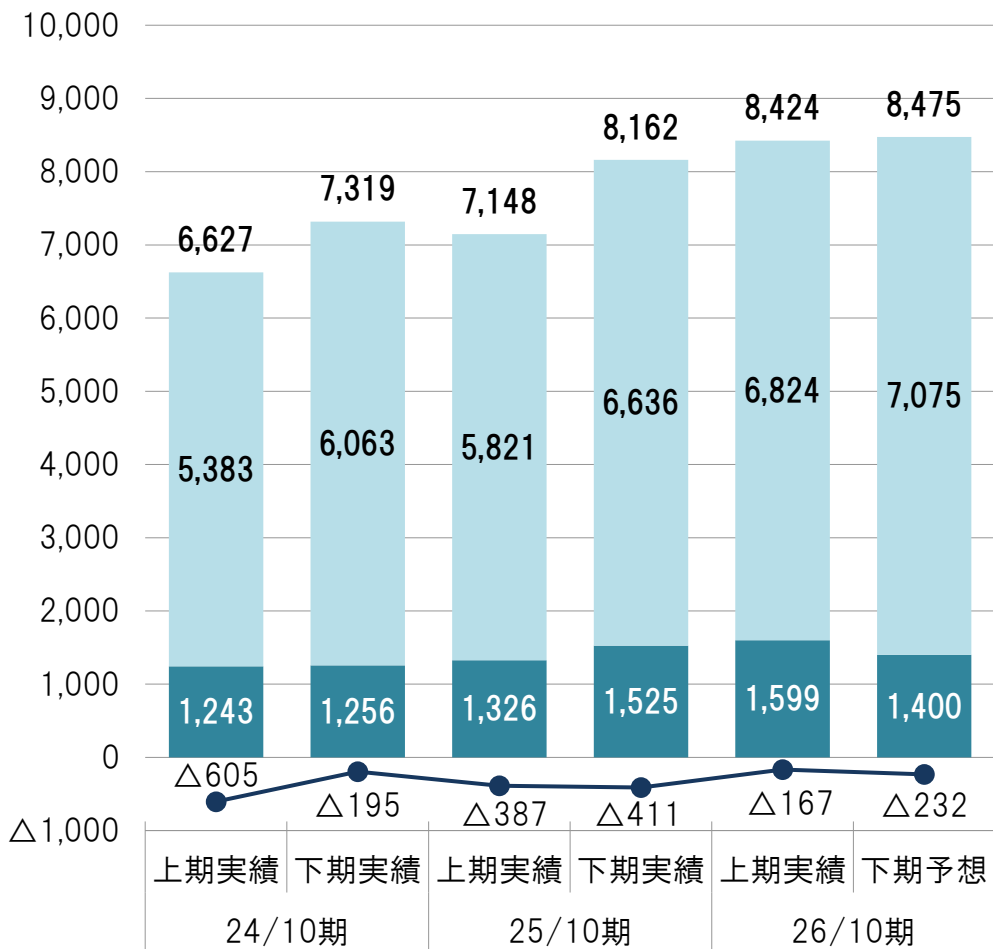
(単位:百万円)



光事業

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

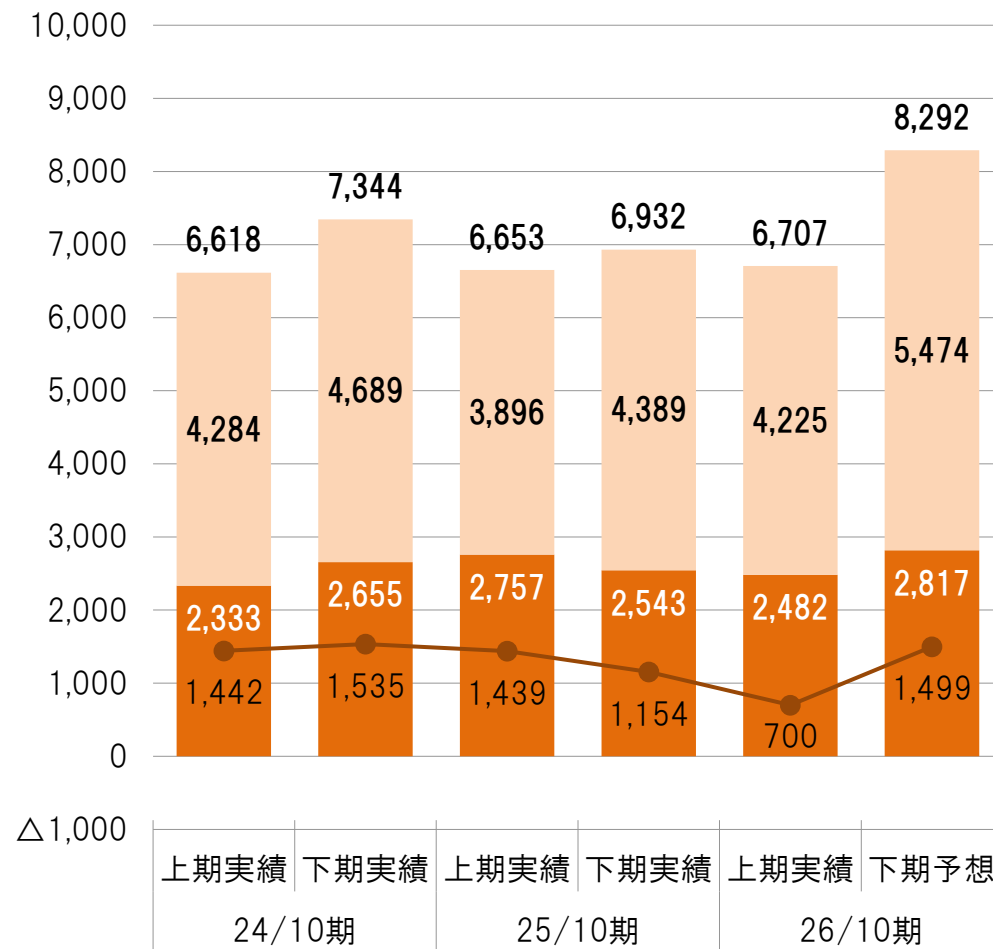
(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,421名(単体468名) (2025年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：10,739名 (2025年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統轄
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産・技術統轄
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業統轄兼事業推進センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2026年4月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.8%
2	キヤノン(株)	4,694	19.8%
3	京橋起業(株)	4,688	19.8%
4	三光起業(株)	1,651	7.0%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,098	4.6%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.6%
7	オリンパス(株)	400	1.7%
8	オハラ従業員持株会	121	0.5%
9	若林 敬三	120	0.5%
10	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	118	0.5%

※持株比率は、自己株式1,715千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

Copyright© 2026 OHARA INC. All Rights Reserved.

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光学(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台湾小原光学股份有限公司 台湾小原光学材料股份有限公司



主要製品

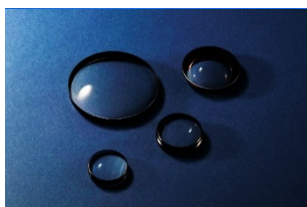
製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨レンズ



ガラスモールドレンズ
(GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	25/10期 上期累計	26/10期 上期累計
売上高(百万円)	7,148	8,424
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	60%	65%
プロジェクター	10%	5%
医療機器(内視鏡等)	10%	5%
車載カメラ	5%	5%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	10%
合計	100%	100%

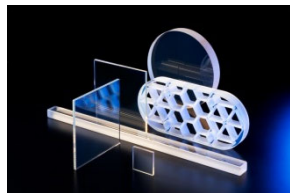
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種類

主要製品

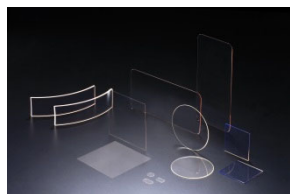
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



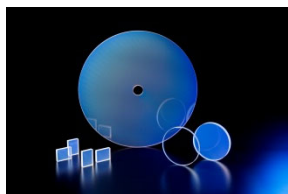
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



i線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	25/10期 上期累計	26/10期 上期累計
売上高(百万円)	6,653	6,707
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	30%	25%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	5%	5%
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	5%
低誘電ガラス	—	5%
その他	45%	45%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。